

2026年新年の挨拶

皆さん、新年明けましておめでとうございます。

高校3年の井口義裕と申します。今年一年の始まりということで、何か新しいことに挑戦し、努力する人も多いと思います。そこで、何か目標に向かって励む際に大事にすべきことを考えてみたいと思います。

まず、このテーマは比較的ありふれたもので、だいたい「努力すれば必ず報われる」や「正しい努力をすれば良い」といったことを言っておけばそれなりに良い話になりそうです。しかし、世の中はそれほど単純なのでしょう。ここで「バイアス」という観点から考えてみます。

例えば、皆さんが武蔵で授業を受けていると、先生が「武蔵生は～」と言って武蔵生の特徴などを言うことがあります。この後に良い内容が来るか来ないかは別として、この言葉、冷静に考えて主語が大きすぎますよね。ほんの一部のある特徴が目立った武蔵生を見て、まるで見えてない大部分の武蔵生の特徴であるかのように言っています。これは見えるもの、自分のみたくもののだけを無意識的に見ようとするバイアスがかかっているためです。

同じように、私たちは努力が報われることを当然のように受け止めてしまいがちですが、努力が上手くいった例しか見えてない、もしくは見ようとしないからそうなってしまうのであって、実際には、一つの成功には多くの見えていない失敗があることを忘れてはなりません。さらに、成功したいくつかの例の共通項を基に「正しい努力の仕方」と見做される方法が登場して、それをなぞるようにして私たちは成功しようとしします。しかし、上手くいかなかった例でも同じ方法が取られていた可能性も、たまたま共通しているだけで成功に直接的な関係はないという可能性もあるかもしれません。つまり、本当は違う努力が必要なのにそれに気づけていないということも考えられます。こうして考えてみると、努力することは決して簡単なことではなく、本当の意味で「正しい努力」など存在しないのではないのでしょうか。

こうした前提のもとで、僕はうまくいかなかった時にどう受け止めて次に向かうか、を考えることが一番大事であると思います。そこで二つの視点から考えてみます。

まず、他人からの目をどう捉えるべきか。これについては、自分の失敗は想像以上に他人から気にされないということを心得ておくが良いと思います。大半の武蔵生は良くも悪くも集団で行動することに向いていないと思われるので、自分が何か失敗したとして、恐らく気に留めません。主語が大きくなりすぎないように「大半の」武蔵生と言いましたが、実際には自分のことを誰も気にしていないと考えて良いと思います。

そして次に、自分自身が失敗にどう向き合うかについてですが、有名なことわざに「失敗は成功のもと」という言葉があります。ご存知の通り、失敗した時に原因を反省して改善すればその後の成功に繋がるという意味ですが、このことわざを深く考えてみると、未来で何かに成功したときに、過去のある失敗を「ただの失敗」から「価値ある成功の素材」と捉えられるようになるという視点を与えてくれているように思えます。つまり、未来を変えることで事実としての過去は変えられなくても、過去の見方は幾らでも変えられうるということです。そのため、見方が変えられるよう、失敗を否定的に捉えるのではなく、むしろ成功するための原動力にすることが一つの失敗への向き合い方であると僕は考えています。

最後に、もちろん今日話したことは何の科学的根拠もありませんし、物事への捉え方も人それぞれです。しかし、視点を変えてみるのが何か目標に向かう上で大切ですし、目標というからには、簡単には諦めきれない理由があると思います。過去の失敗も含め自分のあらゆる思いを原動力に、熱いパッションを持って励んでいくことが、自分にとっての大きな成功につながるはずです。今年一年があって良かったと思える、そんな一年になることを強く願います。

ご清聴ありがとうございました。